



<気持ちは いつも 晴れやかに>

ふくこうちょう ふじた ほしめ
副校長 藤田 肇

6月も終わりに近づきました。みらいの世界のネコ型ロボットが登場する、国民的マンガの主人公が、一年でもっとも嫌いな月がこの6月で、「祝日が一日もない」というのがその理由だそうです。

祝日のあるなしはともかくとして、6月といえば、そう、梅の雨と書いて梅雨の季節。やっぱり雨がなくてジメジメ、ジトジト、気持ちがどうしても沈みがちになってしまいますね。

—ということで、晴れ間をみつけて、いぶきちゃんと一緒に、ちょっとお散歩に行ってきました。いぶきちゃんから「富士山をバックに写真とってヨ!」とお願いされたのでとった写真です。どうです、よくとれてるでしょ? 「元気がでないなあ」という時は、この写真をみてリフレッシュしてくださいね。

まだしばらく梅雨は続きます。体調をくずしやすく、また熱中症にもかかりやすい時期ですので、水分補給や十分な睡眠を心がけ、健康管理に気をつけて梅雨を乗り切りましょう。エイエイおー!!



<できるときに、できることをしよう>

きょうとう こまや 統
教頭 小間屋 統

丹沢で開催中のイベントポスターを駅で目にし、脳裏に浮かんだ思い出から、今回は山のお話。幼少期から眺めてきた丹沢は、私の心を安心させてくれるパワースポットです。眺めるだけではもったいないと、二十歳の頃から塔ノ岳ばかり何度か登りました。とても静かな塔ノ岳山頂の景色は格別です。尾根にいた鹿を初めて間近で見るときは、おののき(猪でなくてよかった)ました。ある夏の日、もっと先の丹沢最高峰、蛭ヶ岳(標高1,673m)に挑戦しました。6時間かけて着いた目的地は、霧がかかり達成感も味わえず、復路は心が折れかけながらの下山となりました。いつかは霧のない日に登ろうかなと思います。ちなみに登山は、いつも弾丸(日帰り)です。

さて、子どもたちの話になりますが、今年度は、コロナ対策も緩和となり、すでに6月に入り宿泊学習も始まりました。今後は、学部間・学校間の交流など、子どもたちがより活躍する場面が増えていきます。学校だよりやホームページ等で、子どもたちの楽しむ様子を、お届けしたいと思います。



「あれ、お兄ちゃんはどこいったんだ?」

B

「みんなで一緒に勉強できるようになりました。」

コロナ感染対策のため、いろいろ制限のあったこの数年でした。昨年10月27日、ようやく登校ができるようになり、病棟別の学習を続けてきました。そして今年のゴールデンウィーク明けの5月8日から、ついに7・8病棟合同での活動ができるようになりました。病院でも保護者の方の面会が可能になったので、4年ぶりの授業参観（スマイルデー）が体育館でおこなわれました。5月はスマイルデーに向けてみんな一緒に体育館に集まって運動、図工・美術音楽でやっている準備体操、ローラーや筆を使った色塗り、琴の演奏の練習を頑張りました。

やっぱり、みんなで一緒に勉強できるって最高です。



D

D弘済では、ゴールデンウィークが終わり、次の帰省日を楽しみにしながら毎日の学習を元気に取り組んでいます。基礎3クラスでは、ミニトマトとトウモロコシを栽培しながら植物のしくみを観察する学習をしています。ミニトマトは昨年度に引き続き、教室内で水耕栽培をしています。4月にスポンジにまいた種から白い根が出て、次に芽が出てくる順番を確認しました。間引きをして、今では本葉が開いてすくすくと5cmくらいまで育っています。培養液の中では白いひげのようなふさふさした根が伸びています。トウモロコシも4月に教室で種まきをしました。トウモロコシの種からは双葉が出ないことに驚きました。15cmくらいの高さまで育て、その苗を畑に植えました。梅雨の前の強い日差しを受けて元気に背を伸ばしています。どちらも夏休み前には収穫ができる予定です。甘いミニトマトとトウモロコシができることを期待しています。収穫する日待ちながら、タブレット端末で撮影したり、定規で高さを測ったりしながら観察を続けていきます。



E

今年のカレンダーは半分が過ぎて、明日からは7月です。雨のトンネルをくぐり抜けると、日差しが眩しい夏がすぐそこまで来ています。

各学年、週に3回おこなっている体力づくりでは、汗を流しながら一生懸命ランニングをする姿がとでも輝いています。今年度も、特体連のティーボール大会や陸上競技記録会などに参加する予定です。日々の努力が実を結び、それぞれの大会で生徒たちが活躍してくれることを期待しています。

また、6月5日（月）から16日（金）にかけて、実習期間がありました。今回の実習では、得意なことをみつけたり、働くことの大変さを実感したりすることができたと思います。卒業後、「社会人」になるために、これからも新しいことにどんどんチャレンジしていき、自分の「可能性」を広げていってほしいと思います。

